

↓ 4月6日(水)、児童公園に避難生活をされています高橋しづ江さん(気仙沼教会員、左から二人目)

2011年4月7日発行

# 教会通信

## 2011年度2号

### 広島平和キリスト



に会いに行きました。ご家族皆様。神社の中で毎日生活されておられます。



↑ パプテスト連盟の先生方、来訪。左から二人目は、日本バプテスト広島キリスト教会の播磨聡先生。



↑ ジャパン・ミッション・センターの富浦好之先生方がいらっしゃり、気仙沼を活動拠点にしたいとお話がありました。



↑ 高橋しづ江さんご家族の避難所。小さい避難所ですが、市役所が近くで、物資は十分とは言えないかも知れませんが、あるとのこと。贅沢は言っではいけないとのこと。



↑ 6日、気仙沼、幸町1丁目。埋もれている「みやこバス」。



↑ 3 気仙沼教会員でした熊谷裕美さん(1年前召天)のお家。裕美さんのお母様がこの辺りで津波にのまれ、亡くなりました。昨日、ご遺体が見つかったとのこと。



↑ 自衛隊が重機を使って捜索をしています。魚のにおいや油のにおい、埃の中、熊谷さんのご家族を訪ねて、瓦礫の中に入りました。自衛隊の方が連絡先に電話してくださり、ご遺体の安置されているところなどが分かりました。

6日(水)も暖かい一日でした。夕方のきれいな三日目に、足が止まりました。地震は、今日も続いています。

左下は、気仙沼教会礼拝堂です。沢山の援助物資が並べられています。誰でも自由に入って、必要なものを持っていくことができます。教会員の三浦さん、高橋さんが衣服の整理、品物の補充など、されています。今日は、関西部会からの沢山の物資、羽村教会からもいっぱい届けられました。その他、昨日、今日だけで17箇所から送られてきました。自転車は、結局12台。

明日は、サマリタン・パスというキリ一人でも立ち上げられますようにと。

瓦礫の中に母子手帳や卒業証書、アルバムがありました。臼井先生は、愛耕幼稚園のものかどうか手にしておられました。そういう思い出の品を拾い集めるボランティアの働きをテレビで見たことがあります。そういう働きも尊いことと思えました。被災された方が一人でも立ち上げられますようにと。

